



10月を振り返って

8月に実施された「令和5年度採用教員採用選考」の結果がほぼ出そろいました。合格を勝ち取られた皆さん、本当におめでとうございます。皆さんは4月からプロ教師としてのスタートラインに立つわけです。一人前の教師・社会人としてデビューするために、学生時代に準備しておきたい内容は色々あります。卒業までの期間を有効に活用してデビューのための準備を進めていきましょう。ご相談いただいた皆様には、役に立つ資料をお渡しいたしますので、声をかけてください。また残念ながら不合格だった方は、今後の進路についても個別にご相談いたしますので、ぜひ皆さん教職課程センターにお越しください。また3年生で教職課程を受講中の皆さんは、教職課程センターへの登録はお済でしょうか？登録していただいた皆さんには私が個別にヒアリングをいたします。来年夏の採用選考に向けて、しっかりと作戦を立てていきましょう。

11月の予定

3年生の皆さんには、提出していただいたエントリーシートの内容に基づいて、個別にヒアリングを始めています。早い人は既に論文作成に取り掛かっています。説得力のある論文を仕上げる力は一朝一夕に身につくものではありません。たくさん書いて、しっかり自己主張ができるようになることが必要です。書き込んでいけば「型」が自然と身についてきます。最初は添削を受けて真っ赤になることと思いますが、それだけ改善が見込めるという意味でもあります。今が頑張りどころですね。年内にできるだけたくさん書いてみましょう。

教員採用選考の結果（小金井キャンパス）

自治体	受験者数	1次合格者数	2次合格者数	合格者の割合（1次/2次）
東京都	7	7	7（正規6期付1）	100%/100%
神奈川県	4	4	3	100%/75%
千葉県	1	1	0	100%/0%
横浜市	2	2	2	100%/100%
栃木県	1	1	1	100%/100%
私立	1	1	1	100%/100%
総計	16	16	14	100%/88%



今年の採用選考の傾向を見ると、1次選考は全員が合格しています。採用する側の立場から考えると、近年受験生の総数が減少傾向にあるので、1次選考で機械的に点数だけで切って落とすのではなく、できるだけ2次選考に進んでもらって、論文と面接で人物を見極めたい、という気持ちが働いたものと考えています。実際に教職教養の得点が自己採点で30点ほどだった人も1次選考を通過しています。つまり1次選考は「足切り」的に活用し、実際の選考は2次重視・人物重視の傾向が強くなってきている、ということです。だからと言って1次選考の準備をしなくていいということではありません。もし「足切り」に引っかかってしまえば2次選考に進めないのですから、準備は例年通り必要です。ただ2次の論文・面接重視の傾向が一層強くなってきたということです。論文選考を突破するための文章力を身に着けるには、それなりの時間がかかります。一刻も早く論文の準備に取り掛かることをお勧めいたします。（まずは教職課程センターに登録してください）

教職 TOPICS No.8 絶対に身に着けておきたい人権感覚！

皆さんはこれから教師として学校現場に出て行くのですが、学校では子どもたち一人一人を「かけがえのない存在」として大切に考えて指導していく必要があります。教師のかけた一言で、励まされ、勇気を得る子どももいれば、教師の何気ない一言で傷つき、一生その傷を抱えながら生きていく子どももいます。（私自身も小学校時代の担任の言葉に傷つき、いまだに忘れることができません）今月は、子どもたちの人権を尊重し、信頼を勝ち取るために、教師が意識しておきたい人権感覚について一緒に考えてみましょう。

人権感覚とは・・・？

- 日常生活で人権課題上のある出来事に接した際に、直感的にその出来事はおかしいと思える感性
- 日常生活で人権への配慮や行動が自然に現れるような感覚、のことを指しています。

教師の人権感覚が表れる具体的な場面（例）

①生徒との会話の中で

生徒の名前を「呼び捨て」にしたり、「お前は」「お前たちは」または「あだ名」で呼び捨てにしたりしていませんか？保護者が聞いたらどう思うでしょう。本人も嫌な気持ちになる事が多いはずです。

学習活動で、「何でこんなことが出来ないんだ！」などと言っていないですか？出来なかつたりわからなかつたりすることは、子どもに原因があるのでしょうか。むしろ子どもの理解につなげられなかった教師の指導に問題があるのではないかと、自身に問うべきでしょう。「一緒に考えてみよう」とか「別のやり方を試してみると出来そうだね」など、共感的で見通しの持てる指導を子どもたちは望んでいます。

②生徒の作品や提出物の取り扱いで

学習の進捗や忘れ物の数、身体状況を表す表やグラフを掲示していませんか？これらは子どもたちのプライバシーにかかわる重大な問題です。

年度初めには、よく自己紹介カードを書かせて掲示する場面が多いと思いますが、その際に「家庭の状況」や「身体の状況」などを書かせていませんか？ これらもプライバシーの侵害に当たります。あるいは子どもの作文等をそのまま掲示していませんか？子どもの書いたものの中には、友達の心を傷つけたり、人権侵害に当たる表現を含んだものがあつたりします。それらは指導して適切な表現に改めさせる必要があります。また、子どもの文章表記の中には、誤字・脱字が含まれる場合があります。これをそのまま放置することは子どもに対する指導の放棄です。子どもと一緒に正しく直してから掲載することは教師の責務です。

③家庭との文書のやり取りの中で

学級だよりなどの表記については、人権に対する配慮を十分に行い、偏見や差別意識を助長することの無いように配慮します。

学級だよりなどを出すときは、事前に管理職に提出（起案）し、指導・決裁を受けた上で印刷・配布します。（必ず複数の目でチェックする！）

学習指導や生活指導に関してのクラスの問題を取り上げて説明する際には、個人名が特定できるような表現は避けます。

家庭に対する調査を実施する際に、保護者の勤務先や職業などの記入を求める事は避けます。

欠席者に対しては、配布物が確実に届く仕組みを作っておきます。特に長欠生徒に対しては、保護者と相談し、定期的に連絡を取るやり方を決めておきます。例：毎週末に担任が家庭訪問する等

④個人情報の管理

学校は個人情報を日常的に取り扱う場所です。しかしあまりにも日常的なので、扱っている情報が「紛失等が絶対に許されない個人情報である」という認識が甘くなってしまう危険性があります。

○生徒や保護者の個人名や個人情報が記された書類を机上に残したまま離席してはいけません。

○成績処理などでPCの画面が見える状態のままで離席してはいけません。

○テストの答案などを管理職の許可なく自宅に持ち帰ってはいけません。

○個人が特定できる写真や記事をホームページに上げたり、配布物に載せたりしてはいけません。

○立场上知りえた個人情報について、他者に（たとえ家族でも）漏らしてはいけません。

○学校での出来事やエピソードなどをSNSに投稿してはいけません。

※個人情報を含む書類やデータ類は、必ずカギがかかる引き出しやロッカーに保管し、作業が必要な時だけ取り出し、作業が終われば速やかに元の場所に戻し施錠する習慣を身に付けてください。

※個人情報を校外に持ち出しすることは厳禁です。やむを得ず持ち帰るときは管理職に申告し、所定の手続きを経て持ち出します。その際自宅へは直帰します。寄り道は許されていません。

※個人情報は外部記憶媒体には保存しない。（紛失は信用失墜行為として厳しく処分されます）

教師の人権感覚チェックポイント

- ①生徒の良さを積極的に見つけ、ほめたり励ましたりしていますか。
- ②登下校時、生徒に率先して声をかけ、温かく送り迎えしていますか。
- ③生徒の心身の健康状態の把握に努め、報告・連絡・相談していますか。
- ④常に生徒理解を心がけ、一人ひとりを大切にされた指導を行っていますか。
- ⑤生徒が、互いの意見や作品を認め合えるような人間関係づくりに努めていますか。
- ⑥問題行動が発生した場合、生徒がその行動に至った背景の理解に努めていますか。
- ⑦一人一人の生徒を大切にするという視点で、掲示物などの教室環境を整えていますか。
- ⑧「いじめは起こって当たり前」と心に刻み、生徒の言動や交友関係に気を配っていますか。
- ⑨欠席者は状況を把握するとともに、学校からの連絡が確実に伝わる様に配慮していますか。
- ⑩教室が子どもたちにとって「安心できる場所」であるよう、人間関係の把握に努めていますか。
- ⑪保護者への連絡、通知表の所見などには、否定的な表現は避けるなど、気を配っていますか。
- ⑫配慮や支援が必要な生徒に対して、クラス全員でサポートする雰囲気づくりに努めていますか。
- ⑬配慮や支援が必要な生徒について、記録を取り、保護者と定期的に連絡を取り合っていますか。

「あなたのことを大切に思っているよ」というメッセージが伝わるように配慮しましょう



人権感覚は「感覚」なので、一人ひとりの教師の感性に大きく左右される部分です。しかし教師には常にクラスの状態に対しアンテナの感度を上げて、子どもたちの発するメッセージを敏感にキャッチする力が不可欠です。鈍感な教師は生徒の信頼を得ることはできません。いつも元気な生徒が今日はちよつと表情が暗い、そんな観察や気づきから、いじめや生徒同士のトラブルの早期発見につながることも多いです。「もしかしたら・・・」「こんな可能性も・・・」など生徒が発信しているメッセージを敏感にキャッチして、生徒たちが安心して生活できる学級づくりを目指していきましょう。感性は努力で磨かれます。今すぐに全てが出来ていなくても大丈夫です。アンテナの感度だけは、常に高く保つように意識していきましょう。